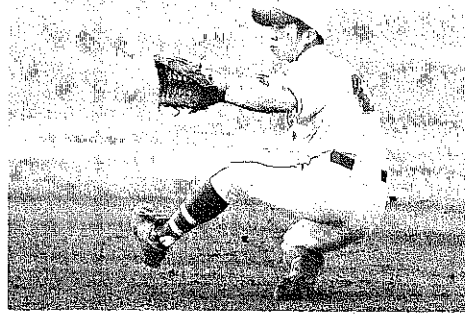


二回、相手4番打者の打球を好捕する児玉魁音。併殺とし、ピンチを切り抜ける＝県



再試合 今度は攻める守備できた

0-10で五回コールド負け。無安打。芝浦工大柏は再試合で挑んだ強豪東海大市原望洋に攻守で圧倒された。だが、自分たちの野球はしっかりと守った。

0-1の二回裏、あつという間に4点を奪われた。なおも1死一塁。打席には4番峯尾京吾(3年)。多くが自分たちを見失い、

芝浦工大柏

児玉魁音二塁手

一気に崩れるところだが、違った。

二塁手児玉魁音(3年)は「どんな球でも止めよう」と強い気持ちを持ち続けた。右側に打球が飛んできた。落ち着いて二塁ゴロをさばき、併殺とした。

雨で流れた前日の試合。失策がきっかけで大量失点したことが心

残りだった。それだけに「投手を助けることができた。負けてる中でも、あきらめない雰囲気になった」と胸を張った。打球に負けない攻めの守備を心がけ地道に練習した成果だった。

福田允監督も「併殺のおかげで守備が安定した」とほめた。五回で13安打を浴び、塁には常に走者がいるような状態だったが、失策はわずかに1。守りは最後まで崩れなかった。

＝県